

2020年秋の叙勲～瑞宝中綬章～受章について

謹啓

この度は、令和2年秋の叙勲に際し、瑞宝中綬章の栄に浴しました。これもひとえに皆様のご指導、ご鞭撻の賜と深く感謝いたしております。

勲章は私のような者にとっては全く縁のないものと考えておりました。内閣府の説明では瑞宝章は国家や公共的な業務に長年携わり、功労を積み重ね成績を挙げた人に与えられるそうです。

振り返ると私自身は大学を卒業後、岡山市南方にあった国立岡山病院に概略30年間勤務しました。その間の数年間は大阪市立小児保健センター・メルボルン小児病院・ピッツバーグ大学に留学した事はありましたが、ほぼ一筋に国立岡山病院にて小児外科診療に邁進いたしました。

その後川崎医科大学で7年間学生教育に携わりましたが、縁あって平成16年から岡山医療センターに院長として勤務させていただきました。この公務員の概略40年の業績が評価されたものかと考えています。

国立岡山病院では、研究機関以外では日本ではじめて小児の肝臓移植を行いました。この成功は当時の全職員の協力があってのものと感謝いたしております。

また、岡山医療センター院長の6年間では、当初500名であった職員数は概略1000名となり、収入も年間100億円から170億円に増加しました。又その間350億円の借金のうち103億円を返済し247億円に減少致しました。又、看護学生の増員とそれに伴う看護学校増築および学生寮の建設、岡山市伊島町の職員宿舎の建設などが実現できました。これも職員が一丸となって取り組んでいただいた結果と思っております。

更に将来に夢を託して、職員の子供達のための保育施設、職員の教育・研修のための研修センター、SARS対応病棟などを含む西館の建設に着手することが出来ました。この感染症対策病室が現在COVID-19の対応に少しでも役立っていることは大変嬉しく思っています。

これらのすべては私とともに同じ方向に向かって進んでいただいた職員の皆様のお蔭と心より感謝いたしております。

今後とも宜しくご指導の程お願ひいたします。

謹白

令和2年12月吉日

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター名誉院長 青山興司

